2025/4/17 資料　Yoshida Nobu

The Family Constellation(In the Ole Testament) より

P478~ 旧約聖書は心理学的発見の泉です。旧約聖書は、個人にかかわるほとんど全ての問題と、その個人の社会との関係を扱っています。甘やかし、ネグレクト、器官劣等性、身体障害と性格への影響、優越性を得るための狡猾さと残酷さ、個人の態度における補償と過補償、全ての範囲の人間の感情、正しい評価と誤った評価。

〇大家族が一般的だったのにもかかわらず、旧約聖書には（多くはない）単独子が登場する。
P480　常に中心にいたいという欲求が、単独子にどちらかと言えば特徴的です。攻撃的あるいは執着的な style of life によって彼らは積極的に支配的になったり、たやすく受動的な暴君（passive tyrants）になるのです（もし弱さと無力さが彼らの地位を保障するならば、周囲を強制的に奉仕させる）。彼らを保護する任務に従って行動する他者への依存が彼らの能力の完成と発展にとって代わるのです。自分を甘やかすことは、早期の子ども時代に受けた甘やかしの引き延ばしかもしれません。
…彼らは自分が安全と感じる人生の頂点に到達するかもしれません。誰かとシェアすることからも安全になるのです。

単独子の例
サウル~イスラエル最初の王（サムエル記、次の王はダビデ）
イサク~アブラハムの子。創世記の登場人物。神様の賜物で、母が 90 歳で生んだ。
ソロモン～ダビデが家来のウリヤを殺して奪った妻バトシェバとの子
　P481 ソロモンは他の誰とも（異母の年上の兄たち）競えなかっただろう。優しく、明らかに弱い体質だったので。しかし彼はたぶん醜さと弱さの補償として勤勉で、知識への関心は、尋常でない業績への努力と、身体的な活動では優越性を得られなかったので、最も賢くなりたいと望む結果となった。
　彼は甘やかされて、彼の歩む道が順調に整えられたことが、父母の助言がふんだんに記載されている箴言から読み取れる。たぶん彼の悲観主義も、子どもの時に体験した甘やかしによるだろう。…異母兄たちの死によって、王と、父の後継者、という役割に押し出された。
　P482 野心から渇望していたにもかかわらず、役割への準備ができなくて、彼は神に導きを求める。「わが神、主よ、あなたはこのしもべを、私の父ダビデに代って王とならせられました。しかし、私は小さい子供であって、出入りすることを知りません」

「私は父ダビデに代って立ち、主が言われたように、イスラエルの位に座し、イスラエルの神、主の名のために宮を建てた」

（神から賜ったのであって、単独子とは明記してない。女きょうだいはいたかもしれない）
預言者サムエル
サムソン（力の象徴）

〇長子
P484 変化を怖れる。なぜならば、それは自分の地位への危険として経験され、…安全への絶え間ない渇望、ほとんどあらゆる形の保守主義は、王座転落の衝撃体験を生涯にわたって抱える人たちによくみられる特徴である。
それゆえに、旧約聖書の、唯一の存在である（イスラエル民族の）祖先、士師（建国までのイスラエルの指導者)、列王が長子であることは驚くべきことではない。

アブラハム～三人兄弟の長子（創世記）
P485 「時に主はアブラムに言われた。あなたは国を出て、親族に別れ、父の家を離れ、私が示す地に行きなさい。私はあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大きくしよう。あなたは祝福の基となるであろう。あなたを祝福する者を私は祝福し、あなたをのろうものを私はのろう。地のすべてのやからは、あなたによって祝福される」
この節は、力が、再び、上位の権威(higher authority)によって与えられるという、長子の考えにまったく一致している。

P486 単独子と長子は、子どもの世界と大人の世界の間に横たわる深淵によって、大人と隔てられている。彼らの努力は、深淵に橋を渡すことに集中する。それは、前進と達成による通常の発達であったり、または往々にして、大人たちを自分に奉仕させようという試みによるのである。

〇第二子
P487 一方で、第二子の道は、前走者によって塞がれている。
第二子は自分の革命的な考え～力の持ち主は変わらなければならず、変化は必要である～の重みを投げかける。なぜならば、もしそのような変化が起こらなければ、自分は先頭の後ろにいるという自分の位置から決して脱することができないからである。
長子であるカイン、エサウ、ルベン、エルは神経症質で、非協力的、粗野、不信心な性格として描かれている。旧約聖書で描かれた彼らの人生の記述を読むと、これらの物語は第二

子によって書かれたのだろうという結論に達する。彼らのうち一人も decent な人間として描写しない、長子への敵意をこんなに集めることができるのは、この家族布置の唯一の存在（第二子）である。

ヤコブ〜エサウ（ふたご）の弟、後に「イスラエル」（神に戦って勝つ）」の名をもらった人
＊エサウには器官劣等性があった。P493 「イサクはエサウを愛した。」
P494 確かにこの第二子は、長子を fighting mad にさせるあらゆることをした。ヤコブはひ弱で、いつもズルをし、いつも人を出し抜き、いつも母に助けさせ、ズルだけでは自分が求めるものを得ることができない時は、何か他の力の助けに頼るというパターンを発達させたのである。
（エサウの台詞）「（ヤコブは）私の長子の特権を奪い（**p486 エサウは豆のスープと引き換えに長子権をヤコブに売った**）、今度は私の祝福を奪った。」
（父イサク）「あなたは剣をもって世を渡り、あなたの弟に仕えるであろう。しかし、あなたが勇み立つ時、首から、そのくびきを振り落とすであろう」
P495 ヤコブにとって、どんな長子にもいいことはなかった。「レアは目が弱かったが、ラケルは美しくて愛らしかった。」ヤコブはラケルを愛したが、ラバンというリベカ（エサウとヤコブの母）の兄に騙されて、最初にレアと結婚することになった。ラバンはヤコブにひどい仕打ちをし、ヤコブはこの長子（ラバン）に再び騙される前に、ズルをしてラバンの前から逃れた。
ヤコブの物語は、社会・仕事・家族という個人の問題の全体を含んでいる。「私には、誰かが助けてくれないようなことは絶対に起こらない」誰かが自分の人生にこんなモットーを選んだとしても、その人は、ヤコブがやったのと違う方法で、よりよく行動することは決してできなかっただろう。
P496 （母リベカ）「兄エサウはあなたを殺そうと考えて、自ら慰めています。子よ、いまわたしの言葉に従って、すぐハランにいる私の兄ラバンのもとにのがれ、あなたの兄の怒りが解けるまで、しばらく彼のところにいなさい。」リベカも第二子であり、このことは彼女がエサウに不公平で、ヤコブがお気に入りであることを説明するだろう。
「時に彼は夢を見た。一つのはしごが上に立っていて、その頂は天に達し、神の使たちがそれを上り下りしているのを見た。」
「わたし（神）はあなたと共にいて、あなたがどこに行くにもあなたを守り、あなたをこの地に連れ帰るであろう。私は決してあなたを捨てず、あなたに語った事を行うであろう。」
「神が私と共にいまし、私の行くこの道でわたしを守り、食べるパンと着る着物を賜い、安らかに父の家に帰らせてくださるなら、主を私の神といたしましょう。」
P497 ヤコブの長子に対する憎しみは、彼が死の床で彼の息子たちに話をした際、ルベン（ヤ

コブの長子）を罵った時に最も印象的なやり方であらわれた。
「ルベンよ、あなたはわが長子、わが勢い、わが力のはじめ、威光の優れた者。しかし、沸き立つ水のようだから、もはや、すぐれた者ではあり得ない。あなたは父の床の上に上って汚した。ああ、あなたはわが寝床に上った。」**（長子のルベン（母はレア）がヤコブ＝イスラエルの側女のビルハ（ラケルの女奴隷）と通じてしまったことを指している）**
P498 「ヨセフ**（イスラエルの下から二人目の息子）**はエフライム**（ヨセフの第二子）**を右の手に取ってイスラエルの左の手に向かわせ、マナセを左の手に取ってイスラエルの右の手に向かわせ、二人を近寄らせた。すると、イスラエルは右の手を伸べて弟エフライムの頭に置き、左の手をマナセの頭に置いた。マナセは長子であるが、ことさらそのように手を置いたのである。」
「ヨセフは父が右の手をエフライムの頭に置いているのを見て不満に思い、父の手を取ってエフライムの頭からマナセの頭に移そうとした。」
「そしてヨセフは父に言った。『父よ、そうではありません。こちらが長子です。その頭に右の手を置いてください。』」
「父は拒んで言った。『わかっている。子よ、わたしにはわかっている。彼もまた一つの民となり、また大いなる者となるであろう。しかし弟は彼よりも大いなる者となり、その子孫は多くの国民となるであろう』このように、彼はエフライムをマナセの先に立てた。」

モーゼ（兄はアロン）
P499「ああ主よ、わたしは以前にも、またあなたが、しもべに語られてから後も、言葉の人ではありません。私は口も重く、舌も重いのです。」
「それゆえ行きなさい。わたし（神）はあなたの口と共にあって、あなたの言うべきことを教えるであろう。」「彼（アロン）はあなたに代って民に語るであろう。彼はあなたの口となり、あなたは彼のために、神に代るであろう。」
P501 しかしモーゼは子ども時代に受けた甘やかしが、彼自身を甘やかすように教えたようには行動しなかった。モーゼは古代の人々の歴史における偉大な革命家の一人であったと見受けられ、典型的な第二子、しかしヤコブとは違う種類である。モーゼにはヤコブの狡猾さがなく、モーゼは兄アロンにだけでなく、全ての人々に、神の代りになったのである。

〇末子
ハム（ノアの子）
ダビデ
ヨセフ（ヤコブとラシェルの子、実際には下から二番目）
P502「ヨセフは年寄り子であったから、イスラエルはどの子よりも彼を愛して、彼のため

に長袖の着物をつくった。」ヨセフは兄たちに嫌われていて、「ヨセフは彼らの悪い噂を父に告げた。」

P504「どうぞわたしが見た夢を聞いてください。わたしたちが畑の中で束を結わえていた時、私の束が起きて立つと、あなた方の束がまわりにきて、私の束を拝みました。」「私はまた夢を見ました。日と月と十一の星とが私を拝みました。」「兄弟たちは彼をねたんだ。しかし父はこの言葉を心にとめた。」

　そしてヨセフは、エジプトで、父と兄たちが彼の前で地にひれ伏すのを見た。

「先にあったことは、また後にもある。先になされた事は、また後にもなされる。日の下には新しいものはない。」

　人間知の心理学は新しいものではなく、人生の意味を求めることも新しくはないが、いつの時代に暮らしていた人類にとっても、人生が、常に問題が山積みになってきているというのは新しいことである。しかし、昔からの真実は、常に新しく、自分自身を充実させるために人々が努力すること、人生における彼らの道、希望と失敗、目的とその目的に到達するための手段も、常に新しく、魅惑的であり、人々は、終わることなく変化しながら、周りの世界との相互依存における個人の役割を追求するのである。

＊旧約聖書の訳は、日本聖書協会のものに拠っています。